

職業訓練指導員試験
全職種【指導方法】出題例

令和7年作成

例題1 職業訓練の種類と基準に関する記述として、妥当なのはどれか。

- (1) 職業能力開発促進法施行規則では、習得させる技能及び知識の「程度」に基づき、職業訓練の種類を「普通職業訓練」と「高度職業訓練」に区分している。
- (2) 短期間の訓練課程を実施する場合、施設の長は受講者に対し、技能照査を実施しなければならない。
- (3) 短期間の訓練課程には、短期課程の普通職業訓練、専門短期課程の高度職業訓練、応用短期課程の普通職業訓練がある。
- (4) 応用課程の高度職業訓練は、専門課程修了者等を対象に、訓練期間1年以上、総訓練時間1,400時間以上の訓練を実施するものとされている。
- (5) 短期課程の普通職業訓練の訓練期間は、すべて6月以下と定められている。

解答 (1)

例題2 以下の文章は、「職務分析」に関する説明である。

文中の「(イ)」から「(ニ)」内に入る語句の組み合わせとして、妥当なものはどれか。

実技指導計画のために行う職務分析では、職業を「(イ)」－「(ロ)」－「(ハ)」－「(ニ)」の順に階層的に細分化できるものにとらえて、教えるべき要素を選び出す。

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
(1)	エリア	ブロック	ジョブ	オペレーション
(2)	ジョブ	オペレーション	ブロック	エリア
(3)	オペレーション	ジョブ	エリア	ブロック
(4)	エリア	オペレーション	ブロック	ジョブ
(5)	ブロック	エリア	オペレーション	ジョブ

解答 (1)

例題 3 生活指導に関する記述として、妥当でないのはどれか。

- (1) 生活指導は、人間の価値の重要性を認識し、自己完成への働きを助けるものであることから、その方法が押し付け、命令的、もしくは説教的であってはならない。
- (2) 生活指導は、訓練時間内のみ、施設内のみ限定されるものではないが、家庭や地域社会にまで及ぶ状況がおきた場合は、人権・プライバシーに配慮し慎重に対処する。
- (3) 生活指導は、すべての訓練生について行われるもので、問題を持つ者や、少数の選ばれた者のみを対象として行われるものではない。
- (4) 生活指導は、思いつきや場当たりの的に行うものではなく、適切な計画に基づき、連続的な過程において、統一的な活動として行われるものである。
- (5) 生活指導は、指導に当たる指導員と訓練生の人間的な信頼感を深めることによって一層の効果を発揮し得るものであるから、他の職員は、極力介入しないよう努めることが望ましい。

解答 (5)

例題 4 職業能力開発促進法に関する記述として、妥当なのはどれか。

- (1) 文部科学大臣は、職業能力開発の基本となるべき職業能力開発基本計画を策定し、都道府県は、職業能力開発基本計画に基づいて、都道府県職業能力開発計画を策定する。
- (2) 事業主は、事業内職業能力開発計画の作成及びその実施に関する業務等を担当する者として、職業能力開発推進者を必ず選任しなければならない。
- (3) 事業主等の行う職業訓練のうち、その内容が職業訓練の水準の維持向上のための基準に適合するものについては、厚生労働大臣からその旨の認定を受けて職業訓練を行うことができる。
- (4) 職業能力開発大学校は、市町村が設置する。
- (5) 職業能力開発総合大学校は、国が設置する。

解答 (5)